間違つていることは，マコモの花を見た人なら何人にもわかることで，著者の如き禾本の大家がこんな間違をする筈は全くない。それ故これは誤記に過ぎない。されば The Genera of the Grasses of the United States (1936) p. 214 には "palea about as long as the lemma" となつて居る。誤植だらけの日本の刊行物なら，こんなことは尋常の茶飯事だが，この本の様な立派な本としては珍らしいことで，たしかに話題とするに足りるので一應記しておくことにした。

3) セイコノヨシ (*Phragmites Karka* Trin.) はヨシと同様に分枝しないものと思つて居たら，千葉縣津田沼町藤崎にあるものは，明瞭に分枝するので，こんなこともあるのかと思つて居る。これは 3 年間見て居るので，1 年丈の思いつきではない。標本は科學博物館におく。勿論種が異るなどとは全く思はれない。

○日本植物に關する最近の外國文献 (5)　（原　寛）

1947 年度に發表された文献の中前回に解說しなかつたものを紹介する。

Lindquist 博士は On the variation in Scandinavian *Betula verrucosa* Ehrh. with some notes on the *Betula* Series Verrucosae Sukacz. と題し Svensk Bot. Tidskr. 41: 45-80, fig. 1-12 (1947) でシラカンバ類を再檢討し，殊に歐洲產の *B. verrucosa* に就てその變異の分析，分布等に關し詳細な硏究を發表した。その結果歐洲のものは 2 變種に區別され，スカンヂナビア北部，フインランド等北方に分布して居るものを var. *lapponica* Lindq. とし，スエーデン中南部から歐洲中西部，歐露に廣く分布して居るものを var. *saxatilis* Lindq. とした。これに關聯してアジアのシラカンバ類に就ての見解を述べて居るが，その中で注目すべきは次の二點である。先づバイカル，ヤクーツク地方の *B. platyphylla* Sukacz. は葉下面脈腋が全く無毛で腺點が少い事其他多くの點で *B. verrucosa* var. *lapponica* に近緣であつて中間形も見られるので *B. verrucosa* var. *pl typhylla* (Sukacz.) Lindq. と改むべきであると考へた，次に東亞には葉が卵狀三角形で單又は重複鋸齒を有し葉下面特に脈腋と花梗に毛があり，枝や葉には多數の腺點がある一群があり，支那（南西部→東部），滿洲，日本，カムチヤツカ，アラスカ，カナダ北西部に分布して居る。若しこの群を，可成り廣い範圍で變化はするが，一種として扱ふとすれば，*B. japonica* Sieb. の名は規約上用ひられないので，アラスカから記載された *B. kenaica* Evans (1899) が起用さるべきであるとして居る。この基本形はエゾノシラカンバ var. *kamtschatica* Regel と同一であるとし，他の東亞の形は *B. kenaica* var. *japonica* (Miq.) Lindq. (p. 75) 及び var. *szechuanica* (Schneid.) Lindq. となる。var. *mandshurica* Regel は資料がないから記さないとしてある。併し我がシラカンバと *B. kenaica* との關係は更に檢討する必要がある樣に私は思ふ。北米の東部には他から孤立した分布をして更に 2 種のシラカンバ類がある。

Copeland 博士の Genera Filicum (1947) は Verdoorn 博士編輯の Annales Cryptog.

et Phytopathol. vol. 5 として出版され 272頁 10 圖版あり，組みもぎつしりつまつて居る大作である。本書の目的は著者自身が序文で述べて居る通り，第一は過去半世紀に於ける羊歯分類學の非常な進歩に對し，現在これを總括的に扱つた書が無い事，第二は多數の詳細な論文を扱つた著者がこれを要約し且つ從來及び現代の他の學者の仕事を統合したものを著すのが適當であると思はれるからである。そうして羊歯植物學は植物分類學中で最も進歩した分野であり，且つ屬の系統を最も明瞭に示す事のできる植物群であると信ずると彼の抱負を述べて居る。

前書きで羊歯の屬の歴史の大要を示してから，本書で羊歯の屬の區分を彼が如何に取扱つたかを述べてある。これには實用に當つての便不便を可成り考慮に入れて居る事が分り，又系統と云ふ問題に特に興味を持つて居る事を明らかにして居る。屬を知るには出來るだけ多くの種を知らなければならず，彼は本書に載つて居る屬の全數 305 中 6 屬を除き凡て實見した。Christensen 博士亡き後羊歯植物專攻家として第一人者である著者が殆ど凡ての屬を自ら檢討して全體を見渡して記した本書は，細かい點では問題が殘されて居るが，現代に於ける羊歯分類の一基準となるであらう事は疑ない。

本文に於て羊歯植物綱 (Filicineae) を Ophioglossales, Marattiales, Filicales の 3 目に分け，全部で 21 科 305 屬に分類して居る。各目，科にそれぞれ記相文があり屬の檢索表がついて居る。屬の下では屬の異名，記載，基準種，種數，分布等が記され，又亜屬，節等の區分や特異の種或は異名に就ての説明や意見が述べられ；更に多くの場合近似屬との關係，系統が論じてある。以下紙面に限りがあるので日本產に關係のあるものを主とし彼の分類系を紹介して見る。

先づハナヤスリ科には 4 屬を含み．ハナヤスリ，ハナワラビ，ミヤコジマハナワラビ屬が認められ，コブランはハナヤスリ屬の 1 亜屬に入れてある。リウビンタイ科は 6 屬を含み，*Protomarattia* 及び *Protangiopteris* Hayata は共に *Archangiopteris* に入れられて居る。彼は解剖上の性質のみで分けられた屬は認めないと云ふ方針である。

Filicales は 19 科に分たれて居る。ゼンマイ科ではオニゼンマイ，ヤマドリゼンマイシロヤマゼンマイも凡て *Osmunda* として扱つて居る。フサシダ科にはカニクサ屬を含めて 4 屬だけを認め *Schizaea* を廣義に扱つて居るが，ウラジロ科では廣義の *Gleichenia* を 6 屬に分ち日本產のものはコシダが *Dicranopteris*, ウラジロとカネコシダは共に *Hicriopteris* に入れられ新組合せができて居る。コケシノブ科では屬は細分され，先に Philip. Journ. Sci. 67: (1-110) 1938 で詳說されて居る様に 34 屬が區別された。

次にワラビ科 Pteridaceae が置かれ 63 屬を含み，タカワラビ，コバノイシカグマ，イシカグマ，キシウシダ，ホングウシダ，ゴザダケシダ，ホラシノブ，イハヒメワラビ，ワラビ，カナヤマシダ，井ノモトサウ，イハガネゼンマイ，ミミモチシダ，ヒメウラジロ，イヌウラジロシダ，リシリシノブ，タチシノブ，ハコネシダの諸屬がここに入る。この科の終りには總括的論說があり，科の特徴として莖は管狀中心柱を持ち時に網狀中

心柱となる點，鱗片よりむしろ毛を被る點，囊堆は基本としては緣邊に着く點，胞子が4面體である點を擧げ，この群は最も難しい群であるが自然的な群と考へると述べて居る。細かい點を二三說明すると，フジシダはキシウシダと同屬 *Monachosorum* に入れるべきであるとし，ホラシノブに就ては屬名に *Stenoloma* を活かすのが無理な點を指摘して，*Sphenomeris* Maxon を用ひ學名は *S. chusana* (L.) Copel. となつた，イハガネサウは *Coniogramme* に入れられ，ヒメウラジロは *Aleuriotopteris* として *Cheilanthes* から分けられて居る。

ミヅワラビ科はミヅワラビ屬のみを含み，ミヅワラビの學名は *Ceratopteris siliquosa* (L.) Copel. とされて居る。

次にシノブ科 Davalliaceae には 12 屬あり，シノブ，キクシノブ，タマシダ，ワラビツナギ屬等を含み，キジノヲシダ科はキジノヲシダ屬のみからなる。ヘゴ科は7屬を含み，*Alsophila* は *Cyathea* の異名に入れられた。併しクサマルハチ，オニヘゴ，ヤシバルヘゴは囊堆は苞膜を有せず脈の背面に着き葉軸が黑く光澤がある點で *Gymnosphaera* Blume に入れ，學名の新組合せが行はれて居る。

Aspidiaceae は最も大きい科で 66 屬を含んで居る。自然的な群と考へて居るが科の特徵を記載文で表す事は難かしいらしい。ここにはクサソテツ，カウヤワラビ，イハデンダ，タイワンヒメワラビ，キンモウワラビ，ヰノデ，ヤブソテツ，カナワラビ，ヘツカシダ，オキナハキジノヲ，ツルキジノヲ，アツイタ，ヲシダ，キヨズミヒメワラビ ミカハリシダ，トネリコシダ，ヒメシダ，エビラシダ，ホシダ，アミシダ，ナヨシダ，メシダ，イハヤシダ屬等が入る。イヌガンソクはクサソテツ屬に入れられ，フクロシダはイハデンダ屬に入つて居る。ヤブソテツ屬は同時の發表であるアメリカの *Phanerophlebia* Presl と同一屬としてそれに合一され，邦產の主な種もその屬名の下に組合せが行はれた。ミカハリシダ屬 (*Tectaria*) の異名に *Aspidium* Swartz, *Sagenia* (ナナバケシダ) *Pleocnemia* (ウスバシダ), *Dryomenis* (ナントウアミシダ) が加つて居る。ヒメシダ屬の名は *Thelypteris* Schmidel が正當な出版でないと云う理由でその代りに *Lastrea* Bory が起用され，ミゾシダ，ミヤマワラビ，ゲジゲジシダ，ウサギシダ，ミゾシダモドキ，ハシゴシダ，ハリガネワラビ，ヤハラシダ，ヒメワラビ，オホバシヨリマ等皆ここに入れられた。ホシダ屬 (*Cyclosorus*) の中にはアジアで *Meniscium* に入れられて居たカウモリシダが含まれて居る。*Athyrium* (メシダ屬) は廣義に扱はれて *Diplazium* の全部をも含み，又シケチシダ，ハクモウキノデ，ハンコクシダ等も入つて居る。

シシガシラ科 Blechnaceae は 8 屬あり，*Blechnum* はシシガシラ，ヲサシダ，ヒリウシダを含み，コモチシダ屬もこの科に入る。

Aspleniaceae は 9 屬を含み，*Asplenium* 屬は非常に廣い意味に用いられてコタニワタリ，オホタニワタリ，アヲガネシダ，ヒメタニワタリ，スゲシダ等もこの屬に入れら

れた。邦產では外にクモノスシダ屬がこの科に入る。

Polypodiaceae も亦大きな科で 65 屬を含みヤブレガサウラボシ，スヂヒトツバ屬もここに入つて居り，外にエゾデンダ，ノキシノブ，クリハラン，マメヅタ，クラガリシダ，キリガタシダ，ヒトツバ，ヌカボシシダ，オキナハクリハラン，イハヒトデ，ミツデウラボシ，ヒメウラボシ，オホクボシダ，サジラン，ナナメシダ，イハクジヤクシダ等の諸屬が入る。エゾデンダ屬(*Polypodium*)には *Marginaria* Bory が含まれ，ノキシノブ屬には *Pleopeltis* が用ひられて *Lepisorus* はその異名とされ，クリハラン屬には *Neocheiropteris* が用ひられて居る。ヒトツバ屬(*Pyrrosia*)の中には *Cyclophorus*, *Niphobolus*, ビロウドシダも入り，ヌカボシシダ屬(*Microsorium*)は *Phymatodes* を含む意味に用ひられ，オキナハウラボシ，ミヅカザリシダ等もこの屬に入つて居る。併しヤノネシダは *Pleopeltis* に入るべきと考へて居る。オキナハクリハランは新屬として *Paraleptochilus decurrens* Copel. と名付けられ，オキノクリハランは *Dendroglossa* に入るものとされた。ミツデウラボシ屬には *Phymatopsis* より古い *Crypsinus* Presl (1849) が採用され，ミヤマウラボシ，タカノハウラボシ等も入つて居る。オホクボシダは *Xiphoteris* Kaulfuss に入り，*X. Okuboi* Copel. となつた。

シシラン科(Vittariaceae)は 9 屬を含み，タキミシダ，シシラン，イトスゲシダ屬等が入り，非常にはつきりした自然的な群で特に前葉體の構造に特徴がある。

Hydropterides は Filicales 中に置かれ，デンジサウ科とサンセウモ科があり，屬の區別は從來と變りない。

本書の分類を見ると，羊齒類の全種類を目前に並べて見て，この中から近緣のもの，系統の近いと思はれるものから集めて行き，實際に扱ひ易い大きさのものを屬とし，又どこへも入れ難いものを別に扱つて，下からまとめて行つたと云ふ感じがする。各々の屬や科がその記載や特徴を讀んだだけではどうしてそこで區分したのかはつきり分らない場合もあり，その屬としては例外な特徴をもつた種が入れられて居る事も少くない。從つてこの分類系を批判するには非常に廣い視野から行はれなければならないと思ふ。

○メタセコイアの葉序の疑問　(前川文夫)

本誌 22: 58 でメタセコイアの葉序について論じた處で，生きている化石として四川省での發見があつたことを一寸報じて置いたが，その後下の二文を見たことから若干の記述を加える。

Merrill, E.D. A living *Metasequoia* in China. Science 107: 104 (1948)

Hu, H.H. et Cheng, W.C. On the new family Metasequoiaceae and on *Metasequoia glyptostroboides*, a living species of the genus *Metasequoia* found in Szechuan and Hupeh. Bull. Fan Memor. Inst. new ser. 1-2: 153-161, t. 1-2 (1948)

この二文は夫々原博士，小倉教授の御好意でみることが出來たので，こゝに御禮を申